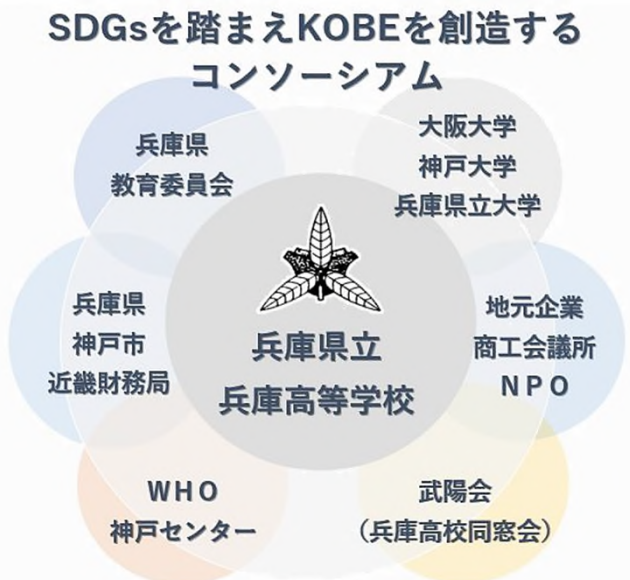


“次世代が選ぶまち”KOBEの実現 ～地域社会の未来を担い世界へはばたく実践者の育成～



研究開発の目標

神戸市の課題に対して生徒が各種外部団体の協力を得て探究活動を行い、複眼的な視点を持ち地域に根ざした人材を育てる。また、全教育活動をSDGsと関連づけるとともに、STEAM教育に力を入れたカリキュラムを編成し、直面する各種都市問題に対して新たな価値を創造できる人材育成プログラムを開発する。

【生徒に習得させる力】

- ①批判的思考力
- ②実践力
- ③創造力
- ④情報活用力
- ⑤協働力

研究開発の概要

地域課題とともに国際的な課題を見つめ直し、その共通点を探りつつ課題解決策を生徒自らが模索する。コンソーシアム関係団体とともにSDGsに関連するテーマについて探究活動を行い、事業終了後も「ESD for 2030」に向けた持続的な活動ができるような体制づくりを図る。

研究開発の計画

令和2年度

コンソーシアムの効果的運用

- SGHの研究成果を踏まえ、コンソーシアムの積極的活用によるグローバル型探究活動の推進
- パフォーマンス評価のさらなる発展と分析方法の確立
- 海外連携校とグローバル型探究活動の共同研究体制の構築
- 実践研究ラウンドテーブル「ひょうごサロン」の創設

令和3年度

学習体制の“探究化”

- SDGsやSTEAM教育を意識したカリキュラム開発

令和4年度

検証と定着

- グローバル型探究学習の教育効果の検証
- ESD for 2030に向けた取組の定着

令和5年度以降

- 事業終了後のコンソーシアム体制の維持と取組の継続
- 他校・他地域への成果普及

山 海

人 知

KOBEの強みをいかした アーバンイノベーション

課題	<ul style="list-style-type: none"> ① 人口減少・超高齢化 ② 経済のグローバル化 ③ 外国人の増加 	資源
	デザイン都市 医療産業都市 ビッグデータ ダイバーシティ 多文化共生 ICT・IoT・AI	
	震災25年	グローバル・シティズンシップ

ローカルの特性を踏まえた グローバルな社会課題解決 のための海外連携

令和2年度

コンソーシアムの効果的運用

- SGHの研究成果を踏まえ、コンソーシアムの積極的活用によるグローバル型探究活動の推進
- パフォーマンス評価のさらなる発展と分析方法の確立
- 海外連携校とグローバル型探究活動の共同研究体制の構築
- 実践研究ラウンドテーブル「ひょうごサロン」の創設

令和3年度

学習体制の“探究化”

- SDGsやSTEAM教育を意識したカリキュラム開発

令和4年度

検証と定着

- グローバル型探究学習の教育効果の検証
- ESD for 2030に向けた取組の定着

令和5年度以降

- 事業終了後のコンソーシアム体制の維持と取組の継続
- 他校・他地域への成果普及

地域との協働による高等学校教育改革推進事業 研究開発の概要
(令和2年度 新規指定校)

指定期間	ふりがな	ひょうごけんりつひょうごこうとうがっこう					
令和2～最大3年間	①学校名	兵庫県立兵庫高等学校				②所在都道府県	兵庫県
③対象学科名	④対象とする生徒数					⑤学校全体の規模	
	1年	2年	3年	4年	計	普通科 837名 (各学年7クラス) 創造科学科 120名 (各学年1クラス)	
	普通科	282	278	277		837	
創造科学科	40	40	40		120		
⑥研究開発構想名	“次世代が選ぶまち” KOBE の実現 ～地域社会の未来を担い世界へはばたく実践者の育成～						
⑦研究開発の概要	<p>本研究では、地域課題の探究と同時に正解のない国際的な課題をも見つけ直し、その共通点を探りつつ課題解決策を生徒自らが模索する。コンソーシアム関係団体と共に SDGs に関連するテーマについて探究活動を行い、事業終了後も「ESD for 2030」に向けた永続的な活動ができるような体制づくりを図る。グローバルな探究課題として次の3つの主題を設定し、それらに関連する課題を生徒自らが設定し探究にあたる。</p> <p>①持続可能な地域経済の発展 ②先進技術を活用した環境・健康・医療・福祉の充実 ③ビッグデータを活用した外国人との共生・交流</p>						
⑧研究開発の内容等	⑧-1 全体	<p>(1) 目的・目標 学校が所在する神戸市は、人口減少と超高齢化が解決すべき喫緊の課題である。次世代を担う若者が「神戸に住みたい」と強く感じるようなまちづくりを行うには何が必要か。このことについて高校生自身が課題を発見し、考察し、提案するという一連のプロセスを各種外部団体と共に教育活動として行い、グローバルで複眼的な視点を持ち地域に根ざした人材を育てる。また、すべての教育活動を SDGs と関連づけて実施すると共に、STEAM 教育に注力したカリキュラムを編成し、世界が直面する各種都市問題に対して新たな価値を創造できる人材育成のプログラムを開発する。</p> <p>(2) 現状の分析と研究開発の仮説 震災後の神戸市では創造的復興が進む中、行政に加え市民自らによる地域課題の解決が進められてきた。今後は外国人居住者の増加、住民のさらなる高齢化、人口減少により、これまでのコミュニティのあり方の見直しが喫緊の課題となっている。多様化するコミュニティにおいて抱える課題を国内外の人々と共有し、協働して調査・研究することで多様な価値観や文化に対する寛容性と主体的な行動力、豊かな発想力を備えた「グローバル人材」を育成し、国内外から地域社会を支えるリーダーを育成する。また、教科横断的に知識を結び付けるカリキュラムを開発することにより、先端テクノロジーを運用し、持続可能なコミュニティを切り拓く力を育成する。</p>					
		⑧-2 具体的内容	<p>(1) 地域との協働による探究的な学びを実現する学習の実施計画</p> <p>1～2年目…SGH の研究成果を踏まえ、コンソーシアム各機関との積極的連携によるグローバル型探究学習の推進、パフォーマンス評価を中心とした評価・検証体制の構築、SDGs や STEAM 教育を意識したカリキュラム・マネジメント</p> <p>3年目…グローバル型探究学習の教育効果の検証、ESD for 2030 に向けた取組の定着</p> <p>【育成すべき資質・能力】 ①批判的思考力 ②実践力 ③創造力 ④情報活用力 ⑤協働力</p> <p>【実施内容】 ①コンソーシアムの連携によるグローバル型探究学習 上記の3つのテーマに基づき、コンソーシアム各機関と連携して、探究活動を行う。</p>				

主な連携先…神戸市、財務省近畿財務局神戸財務事務所、神戸商工会議所、大阪大学、神戸大学、兵庫県立大学、WHO 神戸センター 等

②教育課程上での重点科目等

- ・普通科…「情報の科学」、「総合的な探究の時間」、「グローバルリサーチ」
- ・創造科学科…「創造基礎」、「Research and Report in English」、「情報の科学」、「創造応用」
- ・両科共通…STEAM 教育に沿ったカリキュラム開発

③主な取組

SDGs 講座、外部講師による講義、フィールドワーク、外国人留学生との交流会、データサイエンス基礎講座、海外研修、校内発表会、大学や学会等での外部発表会 等

④海外機関との連携

ベトナム、イギリス研修を実施し、研究成果の発表、大学教授や高校生との意見交換、フィールドワーク、現地企業への訪問等を行うとともに、ICT の活用による連携も図る。

⑤英語運用能力の向上

地域在住の外国人や観光客との交流、外国人留学生とのディスカッション、ICT 機器の効果的な活用等により、生徒の発信力を中心とした英語運用能力の向上を図る。

⑥成果の発表

校内での中間・最終発表会に加え、本校が主催する未来創造シンポジウムや大阪大学及び WHO、県教委が共同で主催し、本校が幹事校として実施する「高校生国際問題を考える日」において、本事業での先進的な取組や研究方法について、県内外の高校教員や生徒、保護者、中学校関係者への周知、普及を図る。

⑦成果の評価、検証

- ・事業で育成すべき上記の資質・能力について、SGH として指定された5年間で作成したパフォーマンス評価を更に発展させ、分析方法を開発する。
- ・創造科学科、普通科の対象科目選択者、非選択者からなるコース、学年別による比較検証を行う。

(2) カリキュラム・マネジメントの推進体制

令和2年度より専任教員7名からなる「特色推進部」を校内組織として設置し、その中に「創造科学科推進委員会」「STEAM 教育推進委員会」「探究推進委員会」を組織する。特色推進部の下には各学年主任、教務部長、進路指導部長、各学年の探究活動に係る授業担当者8名からなる「特色推進委員会」を置き、研究開発およびカリキュラム・マネジメントを効果的に進める。

特に SDGs と関連づけるため、「英語表現 I」では SDGs に関する国連文書等の英文を読解し、討論する。「国語総合」では社会課題についてディベートを行う。「現代社会」では新学習指導要領科目の「公共」を先取りして、人権、環境、政治、経済等の SDGs 実現のための知識理解を深める。

また、校内に全教員が参加する実践研究ラウンドテーブル「ひょうごサロン」を創設し、多様な意見を聴取しながら、カリキュラム開発に取り組む。

(3) 必要となる教育課程の特例等

普通科は「総合的な探究の時間」と学校設定科目「グローバルリサーチ」、創造科学科は学校設定教科「創造」を柱にコンソーシアムを活用し、SDGs と関連付けてフィールドワーク等の地域課題研究に取り組む。また、STEAM 教育に沿った学習を教科に取り入れ、理科と数学、保健体育、家庭、情報においてデータ収集や統計処理、最新機器の活用等を取り入れた授業開発に取り組む。さらに、教育課程の特例による学校設定科目等、新たな科目を構想し、新規に申請する。

⑨その他 特記事項	
--------------	--

※2頁以内（研究開発の実施体制の頁は含まない。）とすること。

【研究開発の実施体制】

管理機関名：兵庫県教育委員会

1. コンソーシアムの構成

機関名	機関の代表者氏名
神戸市	市長 久元 喜造
財務省近畿財務局神戸財務事務所	所長 鈴木 徹
神戸商工会議所	会頭 家次 恒
大阪大学	総長 西尾 章治郎
神戸大学	学長 武田 廣
兵庫県立大学	学長 太田 勲
WHO神戸センター	所長 サラ・ルイーゼ・バーバー
松江第二高等学校（中国）	校長 ユ・ジンフェイ
フエ大学（ベトナム）	学長 グエン・クアン・リン
ハノイ国家大学自然科学大学附属高校（ベトナム）	校長 レ・コン・ロイ
ベクスリーグラマースクール（イギリス）	校長 ステファン・エルフィック
兵庫県教育委員会	高校教育課長 西田 利也

2. カリキュラム開発等専門家，海外交流アドバイザー，地域協働学習実施支援員の体制

区分	氏名	所属	備考
カリキュラム開発等専門家	安藤 福光	兵庫教育大学	②
海外交流アドバイザー	岡田 徹	公益財団法人 ひょうご産業活性化センター ひょうご海外ビジネスセンター	②
地域協働学習実施支援員	藤岡 健	神戸市企画調整局	③
地域協働学習実施支援員	和田 幹司	神戸地域ビジョン委員会	③

※「備考」欄には、本事業における活用の形態別に①～③のいずれかの番号を記入すること。

- ①常勤：本事業のために管理機関又は指定校に配置され、管理機関又は指定校で常時勤務する者
 ②非常勤：本事業のために管理機関又は指定校に配置され、管理機関又は指定校では常時勤務するものでない者
 ③ボランティア：本事業のために活用されるが、管理機関又は指定校から賃金・謝金等の支払がされない者（①又は②に該当する者を除く。）

3. 運営指導委員会の体制

所属	役職	氏名
財務省近畿財務局神戸財務事務所	所長	鈴木 徹
京都橘大学国際英語学部	教授	水山 光春
兵庫教育大学教職大学院	元教授	廣岡 徹
(株)神戸ポートピアホテル	常勤監査役	小室 貴史

神戸市企画調整局	つなぐ担当部長	藤岡 健
公益財団法人ひょうご産業活性化センターひょうご海外ビジネスセンター	センター長	岡田 徹
兵庫県教育委員会事務局高校教育課	課長	西田 利也

4. 経費

区分	金額（千円）	備考
委託費	4,870 千円	
管理機関よる負担	10,000 千円	
その他	0 千円	

※「その他」の欄を記入した場合には、備考欄に「寄付金」等内容を記入すること。

5. 本研究開発実施のための自財源確保の工夫（※該当する場合は、回答欄に○印を記入すること）

区分	回答
本研究開発実施のために、企業版ふるさと納税制度を活用している	
本研究開発実施のために、ふるさと納材制度を活用している	